風土会

会　報　（2015 年 2 月）№58

文責　柴田　悦子

第 58 回学習会を，平成 27 年 2 月 27 日（金）19：00～20：00 福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第 58 回の内容

講師　重枝一郎先生

アクティブ・ラーニング型授業のすすめ

1　アクティブ・ラーニングの必要性の背景

2　アクティブ・ラーニング型授業のすすめ

3　授業の基礎的条件

4　振り返り会

アクティブ・ラーニング型授業のすすめ

1　アクティブ・ラーニングの必要性の背景

与えられたことのみを学ぶ子ども
論理的思考から逃避する子ども
自ら創造する力が乏しい子ども
↓
中教審答申（平成２６年１２月２２日）「高等学校教育については，主体的・協働的な学習・指導法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実を図る。」

※次期学習指導要領において，指導方法（アクティブ・ラーニング），指導形態等について言及される可能性大

「何を知っているか」から「何ができるか」への転換

2　アクティブ・ラーニング型授業のすすめ（人は人で磨かれる）

※アクティブ・ラーニング
教師による一方向的な講義形式の授業とは異なり，生徒の能動的な学習参加を取り入れた授業の総称。方法例として，発見学習，問題解決学習，体験学習，調査学習，グループディスカッション，ディベート，グループワーク等がある。（中教審答申用語集より）

（1）ディスカッション

・テーマに関する理解を深めたいときや決まった正解がない複雑な問題を考えさせたいとき。
☆事前にテーマについて調べさせて，自分なりの考えをまとめさせておく。話し合いのルールを設定する。
〇関心・意欲が高まり，知識と知識を結びつけ，思考を深め多様な考えができるようになることを期待する。

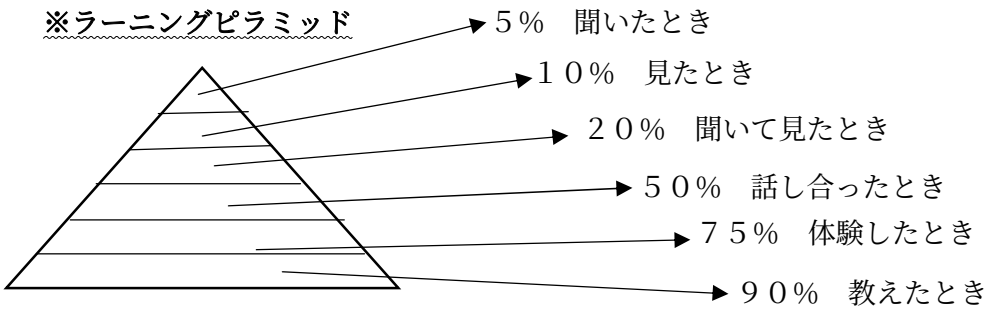
（２）プレゼンテーション

・特定のテーマについて，グループワークやグループディスカッションで話し合った内容を発表する。
☆パワーポイントの利用やレジュメの配布について伝える。
〇まとめる力や伝える力が養われることを期待する。

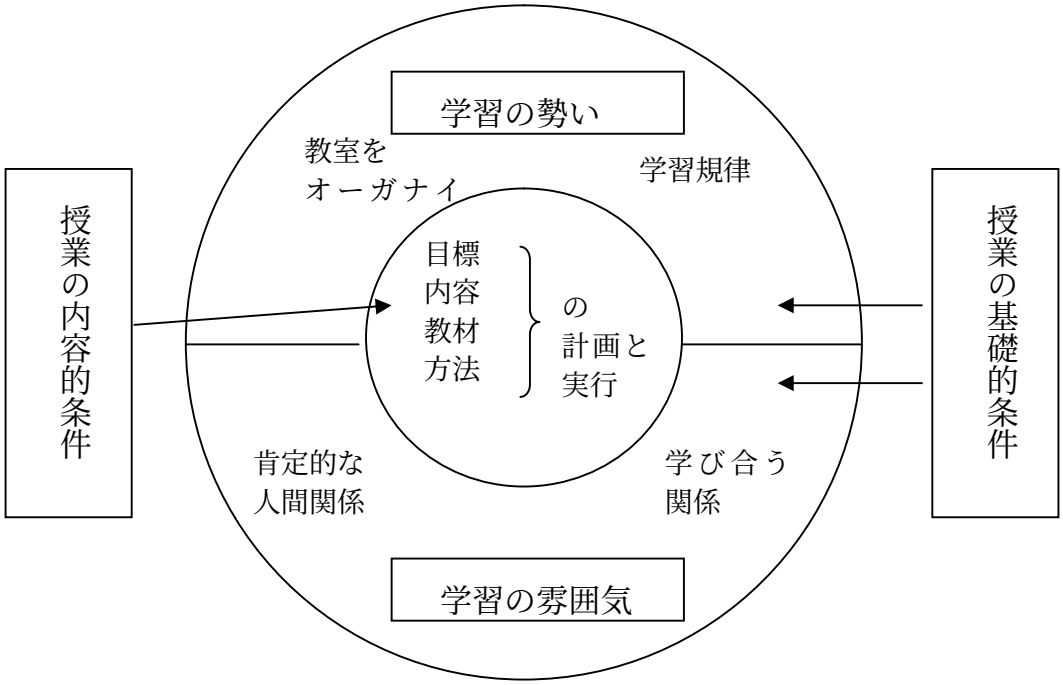
（３）ワークショップ型授業

・「答え」を見つける授業ではなく「答え」を創り出すプロセスを大切にする授業。
☆教師が生徒の学びにどれだけ指摘･助言ができるかが質の向上につながる。
〇考える態度, 多様な考えを整理したり表現したりする力, 判断力, コミュニケーション能力や協働意識, 人間関係力の高まりを期待する。

※　教師の多様な考えに対応する力，引き出す力，課題設定力
※　生徒の実態に応じたねらいの設定，適切な方法
※　「知識を活用する力」以外にも，生徒のどのような力が伸びるのかに注目，期待
（「学士力」「社会人基礎力」）



３　アクティブ・ラーニング型授業と「授業の基礎的条件」



（1）維持ルールを共有

・維持ルールは「べき」のすり合わせでスタート前に先生たちで共有する。
（みんなで怒る準備）

（2）コミュニケーションは質より量

・生徒同士はいいところさがし

（3）つなげる力

・学力向上，いじめ防止対策，不登校対策，体罰によらない生徒指導，指導力向上につながる

4　振り返り会

（1）エンターテイメント性

①授業者をビデオで撮影する。
授業者のバーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションについて実際を見ながら振り返り会で話し合えるように。

②そのビデオを参加者と見ながら，授業者が自評を行う。
ビデオの流れで，焦点を当ててほしいところを言う。

③参加者が一人ずつ学んだことを授業者に伝える。（ラブレター付）

④授業者がそのコメントを聞いて思ったこと，これからの決意等を発表する。（激励の拍手）

（2）教科の枠を越えた指導力【教科の枠を越えた研修交流】

・学ぶ活動自体がおもしろいは，学ぶ内容が知的でおもしろいを支えている。
・技術の基礎は見て盗む。その上で自分らしいひねりを加える。

（3）対応する力，引き出す力を学ぶポイント

①構成力【授業の枠組み】
・集団の目安（落ち着いている？ルールが定着している？）
・学習形態（ペア？グループ？）
・授業の流れ（テンポよく？じっくり？）
・授業進行（教師主導？生徒主導？）

②展開力【具体的に授業を展開する力】
・能動的なこと（発問，指示，説明，提示，活動促進）
・対応的なこと（発言の取り上げ，賞賛，注意，空気づくり，自己開示）

※　大きなねらいとしては，「振り返り会」で前向きに学びあう気風を創り出し，職員室で授業についての会話の交流が活発になることが一番の成果。おそらくそのことが組織開発になっていく。
（「学習する組織」ピーター・センゲ）

解　説

「人間関係」がうまくいかない高校生

最近，高校生になって突然，不登校になる生徒が増えているそうです。中学校の時には，何の問題もなかった生徒が不登校になり，高校の先生方が不登校対応に追われている実態があるそうです。

そのような現実を知ったうえで，先を見通して小学校や中学校での教育を考えていく必要があります。

安心感のある集団をつくるために

福岡市では，中学２年生で「立志式」を行うことになっています。この取組を念頭に置いて，中学１年生，３年生でも関連する活動を行っておくと，高校生でのキャリア教育につながります。

例えば，中学１年生でも「将来の夢」について原稿を書き，班発表で内容（論旨）や態度を評価し合います。班の代表が学級で発表し，学級の代表が学年で発表します。同じ流れで行う３年生の発表を，２年生に見せて審査させると，２年生の立志式の質が高まります。

このように，何度も体験させると，みんなの前で安心して発表できるようになっていきます。生徒によっては，カミングアウトするような発表をすることもあり，まわりを感動させます。このような継続した取組で，安心感のある集団が形成されるのです。

全部がつながっている

指導要領の内容は，社会的な背景があって検討されます。今度の改訂では，「何を知っているか」から「何ができるか」の転換を図り，主体的・協働的な学習・指導法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実について言及されるでしょう。生徒が主体的に学ぶという視点が重視されているのです。

このアクティブ・ラーニングは大枠であり，協同学習や協働学習，問題解決学習やグループ・ワークなどのすべてが含まれます。そして，知識を活用する力以外にも，学士力や社会人基礎力などの様々な力が伸びることが期待されています。

人は人で磨かれる

アクティブ・ラーニングの考え方は，「人は人で磨かれる」ということだと生徒に伝えると，腑に落ちるでしょう。その根底には，人間関係づくりがあります。このように，掘り下げて考えさせないと，形だけアクティブ・ラーニングをしたとしても，騒がしくなるだけです。

自分を振り返ってみても，人から聞いた話はすぐに忘れても，自分が説明したり，人に教えたりした内容は，忘れずに覚えているものです。だから，アクティブ・ラーニング型の授業は意味があるのです。

ワンウェイの講義型授業，知識を入れていく授業ではないからこそ，授業の基礎的条件にこだわる必要があります。

授業の基礎的条件

授業の基礎的条件は，学習の勢いを生みます。例えば，運動をする場合，狭いでこぼこな所でするのと，きれいな芝生の上でするのでは，モチベーションや勢い，雰囲気が変わってきます。

それは，授業でも同じです。ゴミが落ちていないか，机が並んでいるかなどは，学習の雰囲気や勢いに大きな影響があるのです。

維持ルールの共有

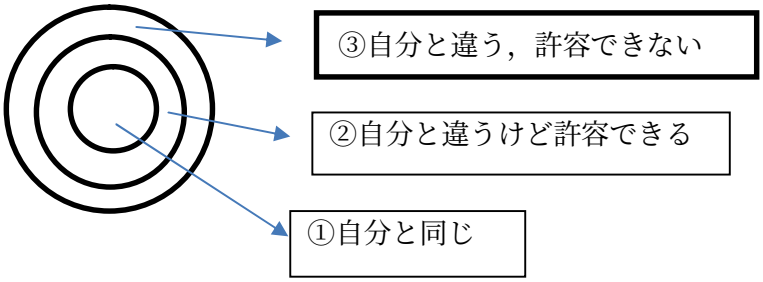
維持ルールは，最低これだけはしましょうという最低限守りたいルールのことです。この先に，向上ルールがあります。そのことを子どもと共有しておきます。

ルールづくりは，教師が行うのではなく，コーチングで子どもから引き出します。子ども達に考えさせると，意外に自分達をしばるルールも出てきます。それをみんなで合意形成（コンセンサス）しておきます。その過程を経ることに意味があります。

子ども達にも先生達にも必ずズレがあるので，コンセンサスを形成することを大事にします。例えば，人はそれぞれの価値観をもっています。「〇〇するべき」の「べき」は，個々で違います。その「べき」の境界線やギャップについて理解し，すり合わせをして「べき」を共有するのです。

それをしておくと，維持ルールを破ったときに，きちんと叱ることができます。最初だけはりきらなくても，途中で軌道修正をすることはできますが，やはり最初は肝心です。まず，規律をつくり共有する過程を大切にします。

※「べき」の境界線



コミュニケーションは質より量

肯定的な人間関係をつくることは，簡単なことではなく時間がかかります。時と共に育まれるものです。一気に仲良くなることはありません。だからこそ，質より量にこだわります。

前回行った演習「先生ばかりが住んでいるマンションⅡ」のワンシーンでも，「これを今，言ってもいいのかな？」と思うカードがあり，「とりあえず言います」と言った瞬間に，つながる場面がありました。他愛もない一言からつながることがあります。この「つなげる力」が今からの時代，必要なのだと子ども達にも日頃から話しておきます。

人とのかかわりが大切です。
学力向上にもつながります。
不登校やいじめ防止にもつながります。
体罰によらない指導，教師の指導力向上にもつながります。

協議会も質より量

先生達で行う授業研修後の協議会も，質より量にこだわると学びが深まります。授業をビデオ撮影して，そのビデオを見ながら協議会を行います。授業者はビデオを客観視して見れば，自分でいろいろなことに気付きます。人から言われると素直に受け入れられなくても，自分で気付いたことは受け入れることができます。

ビデオは早送りしながら３０分くらい見ます。ビデオを見ながら授業者が自評を言います。参観者の先生方は，自分が学んだことを言います。いいところ探しをして終わります。

また，参加体験型の研修会は，生徒に授業をするための気付きを得ることができます。実際に自分が体験したことは，アウトプットする時に，素直な自分の言葉で伝えることができます。

演習　　「黙ってコミュニケーション」

４人組で行うエクササイズです。
このエクササイズは，自分の自己中心性に気付くことができます。ゲームに楽しく参加しながら，他の人への思いやりをもち，援助の手を差しのべ，互いに協力的な人間関係を形成していきます。成功のためには，みんなの力が必要だということを感得させます。

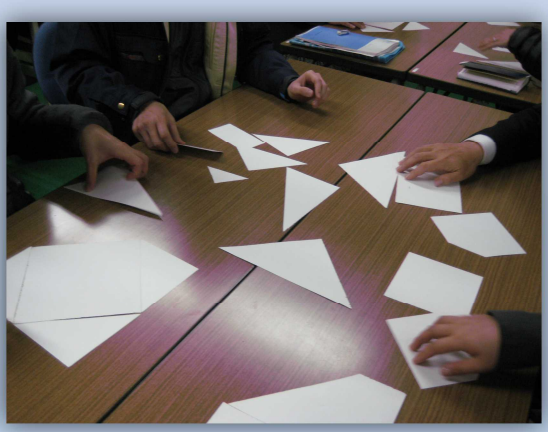
「同じ図形をつくろう」「正方形をつくろう」「しゃべってはいけません。ほしがってもいけません。ただ相手にあげるだけです」という説明で，ゲーム開始です。

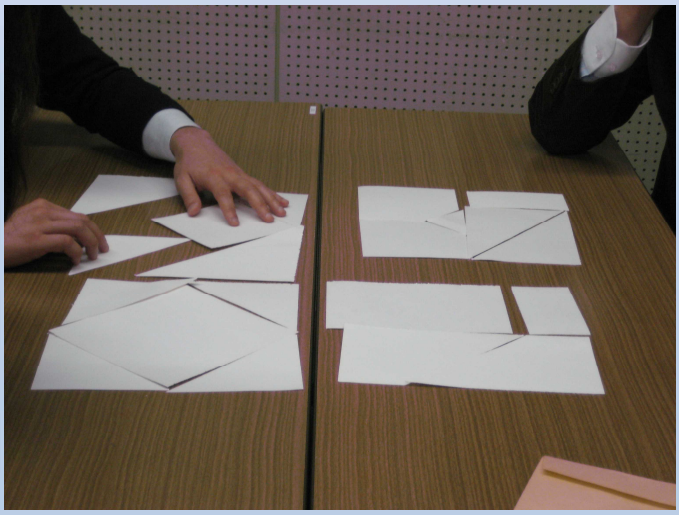
パズルのパーツが各自に配られます。そのパーツを全部使って，同じ大きさの正方形を４つ作るゲームです。自分だけ正方形ができても終われません。４つの正方形が完成しなくてはならないのです。そのためには，せっかくできた自分の正方形をくずして，相手にパーツを渡さないと，ゲームが進まない場面がでてきます。その時にどうするのか・・・。

相手に要求することはできません。自分にできることは，自分のもっているパーツを相手にあげることだけです。あのパーツが自分のところにくれば，正方形ができるのに・・・と思っていてもうまくいきません。それよりも，まわりを見て，どうすればまわりの正方形が完成するのかを考えながら，パーツを渡さなくてはならないのです。
これは，アサーティブに関連するゲームです。自分だけ OK ではダメで，相手も自分も OK にならなくてはうまくいきません。自己中心的な人がいると，うまくいかないし，ストレスがたまります。

このエクササイズをしている過程で反則したりイライラしたりするのは，リーダー的な人です。人それぞれにスピード感の違いがあるので，素早くやりたい人は，思わず手がでる場面もあります。また，じっくり考えながら進めたい人もいます。非常にイライラするストレスフルなエクササイズですが，そこで，自分の自己中心性に気付くことができます。

「お互い様」「思いやり」につなげるために，教師が見守り，このゲームの意図を理解させる働きかけが必要です。ゲームの途中で止めて，ヒントを与えたり，励ましたりすることも必要でしょう。何のためにこのゲームを行っているのか，それをおさえることが大事なエクササイズです。そのためには，振り返りの時間を十分とり，本当に相手の立場に立つことの難しさと大切さを実感させましょう。





今回のキーワード

○　「何を知っているか」から「何ができるか」の転換
○　人は人で磨かれる
○　１００％ワンウェイでなければAL（アクティブ・ラーニング）
○　維持ルールの共有
○　コミュニケーションは質より量

♪　学習会に参加された先生方の感想　♪　（参加人数　２４名）

・風土会に参加して，強くアクティブ・ラーニングを意識するようになりました。今回も規律や人間関係などすぐに作れるものや時間をかけて作っていくなど，日常でわかっていても説明できないようなことを詳しく発見することができてよかったです。
立志式に関連した取組や「黙ってコミュニケーション」なども取り入れていきたいです。

・教師のエンターテイメント性や構成・展開をイメージして授業をすることを心がけていこうと思います。
また，コミュニケーションの質より量を意図的に仕組むこともチャレンジしていきたいです。

・「黙ってコミュニケーション」では，自分の目の前のパーツに集中しすぎてもいけないし，他の人の様子も伺っておかないといけない状況がもどかしくもあり，忙しくもあると思いました。クラスでもやってみたいと思います。自分のクラスの子ども達に，いかに自分が自己中心的に動いているか気付かせてあげたいと思います。また，「人から学ぶ」という意識を子ども達にもたせたいと思いました。

・もうすぐ今の学年が終わりますが，今日の講話を聞くと，私の学年の先生方は，規律をたくさん作ってそれを教え込むことばかりやっていたなと思いました。今日のお話の中にあったように，生徒から引き出してルールにしていくと，生徒達も責任感というか意識が高まるのではないかと感じます。次年度，生徒が進級するにあたり，まずは維持ルールについて学年で話し合うことができるようにがんばります。
「黙ってコミュニケーション」は，ぜひ私の学級でもやってみたいと思いました。道徳の時間にもよく「相手を思いやることが大切」とか，さらっと言ってしまう生徒がとても多いので，相手を思いやるということがどれほど難しいことなのか，体験するのもいいかなと感じました。

・アクティブ・ラーニング型授業について話を聞くことができ，よかったです。人は人によって磨かれるという言葉にもハッとさせられました。また，「黙ってコミュニケーション」を実際に体験して，自分の自己中心性に気付くという点でも，体験活動が大切だとわかりました。今日は，自分の学級や子どもへの普段の指導について，改めて客観視することができた気がします。

・いつも「行きたい！」と思いながら，なかなか参加できず，今日は久しぶりに参加することができて本当によかったです。「べき」のすりあわせは，重枝先生から直接お聞きするのは初めてで，とても勉強になりました。いつも思うのですが，重枝先生は，心に響くキーワード，フレーズ作りとその使い方が本当にすごい！です。心にストンと落ちるような，また子どもの心に火をつけられるような内容，伝え方がなかなかできていません。これからも，重枝先生，柴田先生に学びながら，自分なりに磨いていきたいと思います。

・キーワード，何度聞いてもその直前の体験で，毎回色をかえて染み込んできます。今年度もお忙しい中，ありがとうございました。いろいろとお世話になり感謝です。でも，僕はまだ卒業しませんので，次年度もぜひ，よろしくお願いいたします！！

（本年度も，風土会に参加していただきありがとうございました。遠くは夜須や古賀からも参加していただいています。また，今回は，小学校，中学校，高校の先生が参加されました。さらに，教員以外の参加もあります。そんな出会いに感謝です。いつも，参加される方々から大きなパワーをいただいています。次年度もよろしくお願いいたします。）